



▲黒毛和牛審査基準により審査され、雌らしい品位と質が良いとされた「みに」

川島航三さんグランドチャンピオン

第11回佐賀県和牛改良組合共進会

佐賀県和牛の改良を推進し、優良牛の生産拡大をめざす「第11回佐賀県和牛改良組合共進会」が12月2日、JAさが畜産センターで開かれました。4部門に県内6組織（佐城、からつ、武雄市、白石地区、鹿島市、太良町）から64頭が出品。全部門通しての最優秀賞であるグランドチャンピオンに、未經産の部の川島航三さん（南多久町）が選ばれました。また優秀賞に経産の部の佐々木次男さん（西多久町）、優良賞に雌子牛の部の高塚寛一さん（北多久町）、未經産の部、経産の部の荒谷武彦さん（南多久町）が選ばれ、佐城和牛改良組合が団体賞を受賞しました。

川島さんは「酪農一筋に頑張ってきて、今回の受賞は初めてです。山を切り開いて牛小屋を作り放牧させています。元気で病気をしないように育ててくれればと思っています」と牛への愛情を話されました。

お葬式にまつわるマナーや疑問を解決！

知っ得ゼミナール『お葬式のマナー』

高齢者の生活にまつわる身近な話題やテーマで毎回好評の「知っ得ゼミナール」は、6月から始まり、12月16日に最終回の10時間目が行われ、33人が受講しました。

『お葬式のマナー』というテーマで、メモリアル会館和光の丸山優さん、眞崎麻記子さんを講師に迎え、お葬式にかかる費用、お悔やみ言葉をはじめとするマナーや法要についての話や、これまでの人生を振り返り、保有する財産や趣味、葬儀の希望など自分の意思を伝える『エンディングノート』の紹介がありました。受講者からは「お布施の目安は？」など素朴な質問が飛び交いました。

「葬儀に参列した経験はあるが、改めてよい勉強になった」、「エンディングノートはこれまでに振り返り、子どもたちに意思を伝える良い機会」と受講者から感想が寄せられました。



▲熱心に耳を傾ける受講者のみなさん

「幡船の里」市内福祉施設年末慰問

12/22

西多久町農産物直売所「幡船の里」は、会員が栽培した野菜や果物、花、タマゴなどを、市内4福祉施設に届けました。創業以来毎年行っているもので、訪れたしみず園では、船津会長が「会員が真心込めて作った野菜です。風邪を引かずに新年を迎えてください」と挨拶。しみず園大垣内支援課長は「毎年心のこもったプレゼントありがとうございます。とても感謝しています」と応えました。



「ブライツネスしもづる」

下田さん義援金寄附

12/19

株式会社燦燦会さんさんかいの下田隆子さんは、被災地への義援金として30万円を市役所に届けました。

下田さんは多久町に1月にオープンした宅老所「ブライツネスしもづる」の代表で、開所式の規模を縮小し、費用の一部をぜひ被災地の支援に役立ててもらいたいと、横尾市長に寄附を手渡しました。

市は、日本赤十字社を通じて被災地へ届けました。

